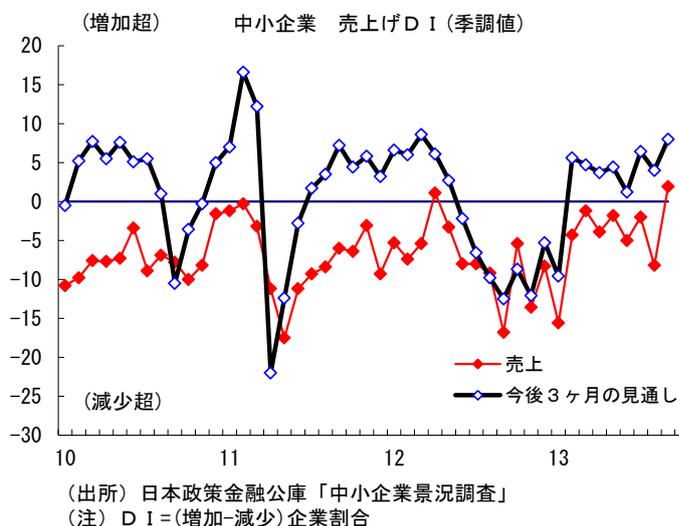
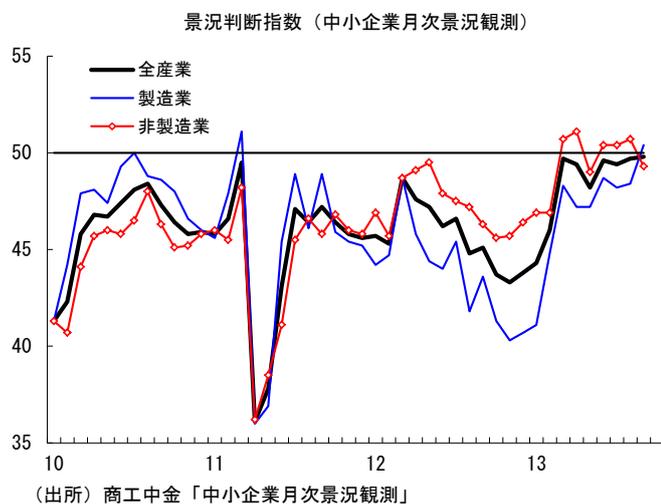


指標名：中小企業の業況(2013年9月)

発表日2013年9月26日(木)

～景況感は引き続き改善傾向。売上げDIが大幅上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 高橋 大輝  
TEL : 03-5221-4524

## ○景況感は引き続き改善傾向で推移。製造業は2011年3月以来の50越え

商工中金から公表された9月の「中小企業月次景況観測」(調査時点：9月上旬)の景況判断指数(1000社調査)は、全産業で49.8(8月：49.7)と小幅上昇した。2ヶ月連続の改善であり、均してみても上昇傾向での推移が続いている。中小企業の景況感は良好だと判断できる。

業種別にみると、製造業が50.4(前月差+2.0pt)と上昇した。景況感の好転悪化の判断基準となる50を越えるのは、2011年3月以来である。内訳をみると、輸送用機械(前月差+8.0pt)、電気機械(前月差+7.0pt)などが大きく改善した。輸出の持ち直しなどが影響しているとみられる。一方で、非製造業は49.3(前月差▲1.4pt)と低下した。内訳をみると、不動産(前月差▲6.0pt)や建設(同▲4.0pt)などが悪化した。もっとも、水準は良好であることや10月予測では再び上昇に転じていることなどに鑑みると、悲観的に捉える必要はないだろう。

また、日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」(調査時点：9月中旬)の売上げDI(季節調整値)は+1.9(8月：▲8.2)と大幅に上昇した。需要分野別にみると、乗用車関連、建設関連、設備投資関連などが上昇した。日本政策金融公庫によると、乗用車関連では北米向け輸出が好調に推移したことで、中小企業にもその恩恵が波及し始めたとの声が聞かれたとのことである。また、設備投資においても自動車を中心に輸出が好調なことなどから大企業向けを中心に受注が増えているとのことだった。来月以降の動向をみて判断する必要はあるが、今後の設備投資の増加が期待される内容といえよう。唯一低下となった家電関連も、今後3ヶ月の見通しでは大幅上昇を見込んでおり、中小企業の売上状況は改善傾向で推移しているといえよう。

## ○販売価格DIの上昇傾向、採算状況DIの改善傾向が継続

円安による原材料高などを価格転嫁できなければ、中小企業の採算悪化は避けられない。景気ウォッチャー調査などでも、コスト高による収益圧迫を嘆くコメントがみられる。しかし、販売価格DIをみると、「中小企業月次景況観測」、「中小企業景況調査」ともに改善が続いている。採算状況DI(中小企業月次

景況観測) や利益額D I (中小企業景況調査) も、均してみれば改善傾向で推移しており、円安などによるコスト高が徐々に価格転嫁され始めていることが示唆される。採算状況D Iは10月予測でも改善が見込まれており、今後も改善傾向での推移が期待される。

### ○先行きも良好な推移が予想される

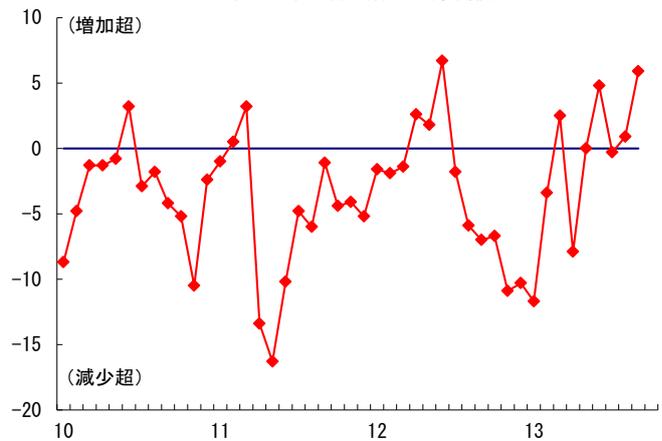
このように中小企業の景況感は小幅上昇し、高い水準での推移となった。10月予測でも製造業、非製造業ともに上昇が見込まれており、今後も中小企業の景況感は高水準で推移することが予想される。製造業では、大企業に偏重していた円安の恩恵が中小企業により波及してくるものとみられる。非製造業では、小売やサービスなどの景況感に改善一服の動きがみられるものの、緊急経済対策効果による公共投資の増加や消費税率引き上げ前の駆け込み需要などを背景に高い水準を保つだろう。こうした要因から、先行きも中小企業の景況感は良好な推移になるものとみている。

業況判断 (中小企業月次景況観測)  
採算状況



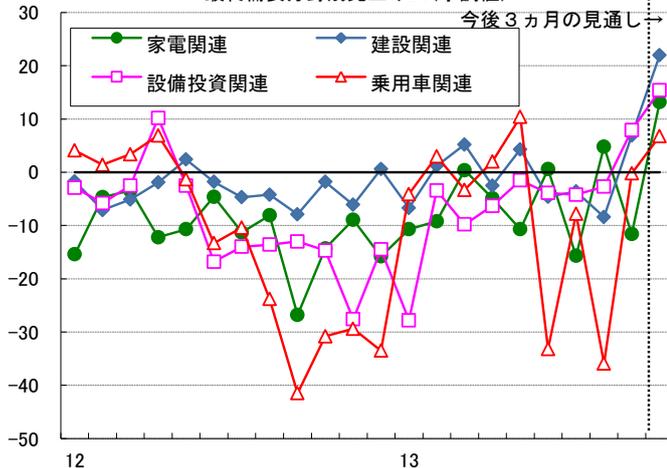
(出所) 商工中金「中小企業月次景況観測」  
(注) 業況判断=(増加-減少)企業割合

中小企業 利益額D I (季調値)



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」  
(注) D I=(増加-減少)企業割合

最終需要分野別売上げDI(季調値)



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」  
(注) DI=(増加-減少)企業割合

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。